

平成27年度

『まちづくり講演会』 実施報告書

『田園回帰の時代～富良野に人と仕事を取り戻す』



主催：富良野市

【開催趣旨】

現在、第5次富良野市総合計画の前期基本計画の5年目を推進している状況にある。

第5次富良野市総合計画の基本理念である「市民の暮らしを地域と行政がともに支えるまちづくり」「富良野の魅力や強みを生かし創造するまちづくり」、将来像である「安心と希望、協働と活力の大地『ふらの』」の視点から、まちづくりについて、市民・地域・行政・企業などがまちづくりに対し共通した認識のもと、共助・協働し進めて行くことが重要である。

日本創生会議・人口問題検討分科会（座長・増田寛也元総務大臣）は平成26年5月、全国の自治体のうち896自治体で、平成22年から平成52年までの30年間に若年女性（20～39歳）が半分以下に減ると試算し、「将来、消滅する可能性がある」と指摘しており、本市も例外ではない。

また、平成26年11月、まち・ひと・しごと創生法が公布に伴い、本市においても、今後の人口減少や少子高齢化対応するために、人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」、地域の実情に応じた今後5か年の施策の方向を提示する「地方版総合戦略」を策定することとなっている。

今回の講演会は、人口減少社会における現状を認識し、今後の地域づくりをどう進めていくか、地方を元気にするために何をすべきかを地域全体で考えるものである。

- ◆開催日時 平成28年2月17日（水）午後6時00分～午後8時00分
- ◆開催場所 富良野文化会館 大会議室
- ◆講師 藤山 浩 氏（島根県中山間地域研究センター 研究統括監）
- ◆参加者数 82名（市民・行政職員・市議会議員・沿線住民等）※事務局含む

1. 開 会（午後6時00分）

○司会進行：富良野市総務部企画振興課長 西野 成紀

2. 主催者挨拶

○富良野市副市長 石井 隆

【挨拶要旨】

- ・平成26年5月に日本創生会議・人口問題検討分科会（座長・増田寛也元総務大臣）は、全国の自治体のうち896自治体で、平成22年から平成52年までの30年間に若年女性（20～39歳）が半分以下に減ると試算し、「将来、消滅する可能性がある」と指摘しており、本市も例外ではない。
- ・また、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が公布され、本市においても、今後の人口減少や少子高齢化対応するために、人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」、地域の実情に応じた今後5か年の施策の方向を提示する「地方版総合戦略」を策定することとなっている。

- ・平成27年の国勢調査において、道内179の自治体の内、171の自治体が人口減少に転じている。その中の46の自治体は10パーセント以上人口減少しており、人口減少対策は各自治体の急務となっている。
- ・富良野市においても、地域懇談会などを通じて市民と人口減少問題について議論を重ねている。
- ・また、産官学金労による富良野市総合戦略有識者会議を設置し、各分野の視点から検討を重ねているところである。
- ・第5次富良野市総合計画におきましても、平成28年度より後期基本計画がスタートしますので、前期基本計画を検証し、人口減少対策を含めた具体的な策定作業を進めているところである。
- ・昨年行われた全道副市町村長会議にて、藤山先生の講演に感銘をうけ、ぜひ富良野市でも講演を開いて欲しいとオファーをした。皆さんにとっても非常に大切な講演となると思うので、じっくり聴いて帰っていただきたい。

3. 講演

◇講演テーマ：『田園回帰の時代～富良野に人と仕事を取り戻す』

◇講師：藤山浩氏（島根県中山間地域研究センター 研究統括監）

【講演要旨】

I. 富良野市内を回った感想

1-1 富良野市街地について

- ・フラノマルシェは一つの建物で複数の役割を持っており、また、地元の食材を駆使した飲食店が入っていて素晴らしい。
- ・東5条通の商店街は良くできており、ここまでの商店街は他の自治体でも中々ない。
- ・タマリーバも非常に良くできており、出来ることなら薪ストーブを入れて欲しい。
- ・東大演習林をうまく活用していかなければならない。

1-2 富良野市郊外について

- ・東山地域にはお店が無くなってしまっているが、お店を復活させる場合は様々な役割を持たせたお店（食料品売り場、ガソリンスタンドなど）として復活させるべき。これが小さな拠点の考え方である。
- ・郊外に自分で小屋を建てさせるようなプロジェクトを考えられないだろうか。ぜひ自然を活かしたプロジェクトを考えて欲しい。

II. 人口ビジョン「1%戦略」

2-1 今、都市部で何が起きているのか

- ・70~80年代、都市部にたくさんの団地を建てた結果、当時移り住んだ多くの人が高齢者になり、都市団地の高齢化率が跳ね上がった。
- ・多くの人々が都市部に住んだ結果、長時間通勤をしている人も増え、家族で夕食をとれない人も増えた。

- ・経済優先の社会になった結果、地方から都市へ人口が流れ過ぎてしまい都市部へ人口が一極集中し、その都市部の高齢化率も非常に高くなり、経済の2周目が見えない社会になってしまった。そんな中、東日本大震災で人口の一極集中、エネルギーの大量生産、大量消費の社会では駄目だと露呈した。

→生半可な対症療法ではなく、大きく社会の転換をしなければならない。今後10年凌げばいいのではなく、もっと長続きのする、循環する社会を出発点である田舎から始めていかなければならない。

2-2 市町村消滅論を受けての島根県の取り組み

- ・市町村単位で分析して人口減少対策を考えるのではなく、昭和の旧村レベルの単位で細かく分析して対策を考えていくべきである。
- ・島根県ではそうした細かい人口分析をしていった結果、山の中の集落や島にある集落において30代女性たちが増えていることがわかった。
- ・住民たちが積極的に移住者を迎え入れる体制を整えていった結果、東日本大震災を経験した都市部の子育て世代の女性が都市部での生活に限界を感じ、田舎に入ってきた。
- ・島根県に必要な定住増加人数を分析した結果、地域人口総数の約1パーセントの、2920人定住してもらえれば人口が安定化することが分かった。
- ・各地区で、人口100人当たり1人定住してもらう『1%戦略』を打ち出した。
- ・今年度、益田市二条地区が『1%戦略』を達成し、島根県全体で新規就農が最高ペースとなっている。

2-3 富良野市の人口分析

- ・全国市町村が分析した人口ビジョンの7~8割には重大な誤りがある。出生率や社会増減全体のバランスだけ分析するようでは駄目。その間違った分析をした結果、とにかく若年層の定住を目指している市町村がある。
- ・人口は、子ども世代、働き世代、高齢世代の3世代をバランスよく定住させなければ安定しない。
- ・富良野市はまだ人口ピラミッドのバランスが極端に崩れているわけではない。しかし、全世代が減少してしまっており、特に40代の人口減や60代男性の人口減が目立つ。
- ・このままでは富良野市は急激な人口減少が進み、高齢化も着実に進んでしまう。人口を安定させる方策が必要。

→富良野市は人口の0.7%である161人の定住を達成すれば人口は安定する。具体的な内訳は、30代の子連れ夫婦（4歳以下の子ども）を23組以上、20代前半男女を23組以上、60代男女を23組以上の計69組以上161人の定住を目指す。ただし、これと共に出生率を2.0近くまで上昇させ、高校生の市外流出を半分くらいに抑えることが必要。

→人口減少対策というものは、市町村単位での方策と学区単位レベルでの細かい方策を考えていかなければならない。

III. 所得「1%戦略」

3-1 所得の域外流出

- ・大学の学費が高いため、若者は地元に戻ってこようと思っても生計が立てられずに、そのまま都市部で働いてしまう。若者のUターンのためには帰ってきても生計が立てられるような体制を整える必要がある。

- ・地元以外の食材、地元以外のチェーン店での購入が多いとどんどんお金は流出していく。
- ・島根県の高津川流域では住民の所得額（1,556億）とほぼ同額（1,420億）が域外に流出している。
- ・少しでも地産地消を目指し、流出額の1%とりもどすだけでも地元で14億も取り戻せる。
- ・買い物のための送迎バスに販売用の野菜も載せて運んでしまう等の「合わせ技」が地産地消に繋がる。

→外からお金を集める方法をとるのではなく、外に出て行ってしまってお金を減らす方法を考えていくべき。

IV. 合わせ技の組織・拠点を創る

4-1 小さな拠点作り

- ・農業や運送業、防災組織などを縦割りではなく、様々な仕事をやれる会社を作るなど、「合わせ技」でやっていくべき。
- ・拠点もバラバラであるのではなく、「合わせ技」で集中させる。すなわち「小さな拠点」を作っていくべき。
- ・イギリスではパブが交流の場、クリーニングの集配、生鮮品の販売等の「合わせ技」の拠点となっている。

→小さな拠点はみんなが集まってよかったと思える場にならなければならない。
まずは月に一回みんなで朝食をとる場を作ってみてはどうだろうか。

V. まとめ

- ・どこでも買える商品ではなく、地元産のものを使った商品を買う。または、そうしたものを集めて売るお店を作る。こうしたことが循環型社会のキモである。
- ・大量生産、大量消費、大量廃棄の社会は長続きしない。地方や暮らしの個性を見つめなおし、住民一人ひとりがいきいきする長続きする多彩な社会を目指していくべき。
- ・移住してきた人にその地域の良さや特徴を実際に見て回りながら説明して住んでよかったと思ってもらうことが大事。
- ・地元とは住んでいる人々の姿が残る場所。人口とは人生の数である。

4. 質疑応答

Q：隠岐の高校は県立にもかかわらず、一クラス増えたと言っていたがどのようにして生徒を増やしたのか。

A：隠岐島前高等学校は海士町にある高校だが、その高校がなくなると海を越えないと高校に行けなくなる。島から高校がなくなるといことが大きい。島から出ていった高校生が地元に戻ってくるかというと、それは難しい。こういった理由から町営の塾を作るなど、町に残ってくれる、町に戻ってきてくれる若者を育てることに町全体で取り組んだ。現在は島根県全体にこうした動きが波及している。

5. 閉 会 (午後8時00分)

【参加者状況】 ※事務局員含む

- 参加人数 (82名)
 - ・富良野市 68名
 - ・上富良野町 1名
 - ・中富良野町 7名
 - ・占冠村 0名
 - ・旭川市 4名
 - ・その他 (滝川市、札幌市) 2名
- 参加率
 - ・富良野市内 83%
 - ・富良野市外 17%

【アンケート集計】

- 回収率
 - ・85% (回収者数66名/参加者数 (事務局除く) 78名)
- 年代構成
 - ・20代 6名 (9%)
 - ・30代 7名 (11%)
 - ・40代 16名 (24%)
 - ・50代 29名 (44%)
 - ・60代 5名 (8%)
 - ・70代以上 3名 (4%)
 - ・無回答 0名
- 今回の講演会は参考になったか？
 - ・参考になった 62名 (94%)
 - ・参考にならなかった 0名
 - ・どちらでもない 0名
 - ・無回答 4名 (6%)
- 今後、講演会に参加するか
 - ・参加する 57名 (86%)
 - ・参加しない 0名
 - ・内容による 7名 (11%)
 - ・無回答 2名 (3%)
- 講演会の感想
 - ・人口が少ない地域での保育所として、何かできること。連携していけることに対して、何かしらのヒントになりました。(40代)
 - ・見る視点を変える必要があると思った。経済の地域循環が大切。(50代)
 - ・共感できる内容でした。参考になりました。地域のためになるお話でした。(50代)
 - ・域内循環の重要性について理解できた。単に外貨獲得の推進だけではなく域内循環のシステムを構築する必要があると思う。(30代)
 - ・発想の種々が新鮮であり驚きも多くあり、多くの人が考える起点になりうると思いました。東山に当てはめて、話をする場にしてもらいたい気もしています。もっと処方箋を充実したわかり易い資料を、市にも出していただければと思いました。(50代)
 - ・地域内循環の必要性を痛感。(50代)
 - ・小さな拠点毎の取組み事例は参考にすべきと思料します。(40代)
 - ・家族でおいしく楽しく食事ができること。食の原点を大切にすることから、丁寧な町づくりへつながると思料しました。(40代)
 - ・私は農業中心ですが、JA富良野農協の理事者でもあります。北海道の大きな面積で何十種類の作物を作るのは、まずあわないと思料します。経費が悪化するので無理だと思料します。(40代)

- ・分析力を活かし問題点をあぶり出し、そして解決に進みだすプロセスをどう構築できるかが課題でありましょうか・・・（40代）
- ・これまで目を向けたことのない話でしたので、考え方への刺激となりました。地域内での特色の出し方を今後考え、それ以外の分野の参考にもさせて頂きたいです。（20代）
- ・「あわせ技」「1%づつ」良い考え・視点だと思います。賛成です。そのために、大量生産など効率優先の思想を変えなければと思います。地域の人間もそうですが、企業（特に大企業）も変わらねばと思います。（50代）
- ・あきらめたらだめだと思いました。やれることはまだまだありますね。（40代）
- ・集落単位で地域存続のための方策を考えるという機会を持ち、集落単位での人口分析により移住者を年1組増やすなどの目標を立てて取り組むといった、大規模な定住移住対策にお金（税金）をかけることが必要ではと思いました。地域の足の確保として、ついでに地域内で便乗させてもらえる仕組み（便乗が可能な車の登録、便乗を希望する人にチケットを購入してもらおう等）があると良いと思いました。（40代）
- ・ただ人口を増やす、減らさないことだけではなく、地産地消という経済面、コミュニティーづくりが地方創生につながることに気付くことができました。また、富良野市の人口等の分析も説明をいただき、改めて見つめ直す機会になりました。（20代）
- ・大枠は理解できた気がするが・・・自分が何ができるかという具体的なイメージがわからない。自然の流れで現状が生まれた。それをもとの集落に戻すことは容易ではないので・・・。（40代）
- ・小さな拠点をもっとくわしく勉強してみたいです。（50代）
- ・クローズアップ現代を見て、何かな？と思い、本当の興味本位だけで参加しましたが、農家の中で活かす事が出来る自信、となりました。富良野は移住とは言ってますが、全部中途半端でやさしくない町だと思っています。変な固定観念が一番じゃまだと思っています。今日のようなおもしろい話を聞いても、はねのける人が多いでしょう。一度ぜひ受け入れてほしいものです。（40代）
- ・東山・麓郷・布礼別・山部の各地域で今日のような話を進めたいですね！（60代）
- ・散居（農村部）が維持できる小さな拠点づくりとコンパクトシティ化の対立軸があるような気がしています。（40代）
- ・小さなことを大切に。外だけではなく中にも目を向けることが大切だと感じました。1つではできない小さなことをあわせていくことで可能になることがあり、それが強みになるんだということがわかりました。（30代）
- ・薪はあらためて面白いと感じた。薪ストーブ。（50代）
- ・自分が住んでいる街を好きになる事。街の魅力を再発見する事。人口減少より維持する努力をしなければと思う。目からうろこの様な講演でした。（60代）
- ・食文化の向上を目指します。（50代）
- ・とても興味深かったです。（50代）
- ・保育所が街なかにあっという間と言われていたが、それは違うと思う。広い土地があるのに保育所に子供が走りまわられるグラウンドがないのは子供にとってはかわいそう。自然の中で伸び伸びと育つとか、富良野のイメージとはかけ離れている。あんなに反対運動をしたのに残念。月に1回のモーニングの日はいい案。地域の人々が集まる機会をつくる事は楽しいし大切だ。やってみよう。（50代）
- ・「小さな拠点」「地域内循環」とても参考になります。何でも市内中心部に寄せるのではなく、麓郷・東山・山部に体现したいものです。地域が光り輝く、訪ねて、住んで、嫁いで良かった地域にしたいです。（50代）
- ・人口減少を防ぐために、人・モノ・金を域内で循環させる重要性がわかった。域内の人々の意思統一が不可欠である。富良野市レベルでは難しいが、市街地外の拠点地区なら可能であると思う。マイナス思考になるがIターンする新参者には地域の人は冷たいのではないかと。一過性の者（観光客など）にはやさしいが・・・。（50代）
- ・循環する（2周目が見える）地域づくりの重要性、「合わせ技」により小さな拠点や人と人との密なつながりなど、これからのまちづくりの可能性が「田舎」にこそあると感じました。（20代）
- ・人口、所得とも「取り戻す」という話。とても良かったです。（50代）

- ・富良野地域内における所得流出を防ぐために、森林資源の活用（特にエネルギー分野の面で）をより一層必要だと再認識した。薪やペレットだけではなく、熱供給事業の実験を公共施設で考えて欲しい。（30代）
- ・観光による外貨も必要だが、地域内循環が大切だとあらためて参考になった。フラノギフトカード等、様々な取り組みもなされているが、地域住民個々の意識を持ってもらうことが必要だと感じました。又、観光による外貨を外に出さないような仕組みをもっと考えていただくべきだと感じた。（30代）
- ・循環型社会をめざす。（50代）
- ・地域内経済循環の大切さに気付かされました。（50代）
- ・田舎の生き方に光明が見えた。ありがとうございました。（70代以上）
- ・3世代のバランスをとった定住増が重要！～ポイント！組合せ！地域内経済循環の再生！（50代）
- ・地方創生＝コミュニティの再生であることを再確認しました。また、経済なくして創生なしということも感じました。（50代）
- ・少しでも地元産のものを購入していこうと思います。（50代）
- ・実現が不可能な成功例ではなく、長いスパンで理にかなった施策。地域にあった施策を見出していく必要があると感じた。（30代）
- ・地域循環を近いところからやっていく。Made in Furano（40代）
- ・赤平のように高校をなくさないでほしい。数年前にお願いした、隠岐を含む島根の講師のお話を聞いてうれしかったです。（40代）

